



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数
配布

令和6年(2024)7月19日号

校長 狩野 洋光

「あゆみ」をお渡しいたします

本日、あゆみをお渡ししました。子どもの成長は、一口で語ることはできません。教科の評価以上に日々のがんばりを評価することが大切です。「朝、自分でおきた」「歯磨きをした」「顔を洗った」「あいさつをした」「朝ごはんを食べた」「宿題をした」「していなかったけど元気だ」朝のルーティンだけでも、ほめることがたくさんあります。

お子さんが生まれ、できることが少しずつ増えていくことが嬉しく、ときどきの失敗が愛おしく、感動の日々だったのではないのでしょうか。いつからでしょうか「もう〇歳だから」「もう〇年生だから」…。励ましや期待と受け取り、ますますがんばれる子もいるでしょう。しかし、励ましや期待をこめての言葉が、子どもにとっては、違うメッセージとなっていることがあるかもしれません。

1年生だけでなく、2年生から6年生まで、中学生も高校生も、大人も、みんなほめられたいものです。今日は、お子さんの一学期の成長だけでなく、これまでの成長も含め、おおいにほめてあげてください。毎日の送り出し、見守りをしてくださったお家の方も本当にご苦労様です。ありがとうございました。

「あゆみ」の見方については、評価項目だけでなく、個人懇談会での学級担任との語らいを思い出していただき、一学期の伸びと課題をお子さんと話し合ってください。学級担任の所見は三学期のみとなっております。また、今年度から1学期と2学期の「あゆみ」は、薄い紙を使っております。3学期は、従来通り、厚い紙に印刷したものをお渡しいたします。学校予算も物価高騰の影響を受けております。何卒ご容赦いただきますよう、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

子どもは地域の宝～コミュニティ・スクール

先日、今年度3回目の学校運営協議会を行いました。一学期の学校の取り組み、子どもたちの様子を委員の皆さんにお伝えしました。学校は色んなことが起きる場所です。そして、トラブルを学びに変える場所です。学びに変える場所にしていくために、学校の指導の在り方も昭和、平成から大きく変わっています。従来型の指導を受けてきた大人世代からみると、手ぬるい指導と思われる方がいらっしゃるかもしれません。当然です。我々教職員の間でも、「もっと厳しくしないといけないのでは」「いや、見守り、観察が大事なのは」と意見が分かれるところです。

価値観が多様化し、社会は大きく変化しています。学校だけで子どもたちを指導していくことが難しい時代を迎え、社会全体で子どもを育てることが、ますます重要になってきているといえます。コミュニティ・スクールは、地域全体で子どもを育てていこうという取り組みです。

予測困難な時代を生き抜いていく子どもたちに、我々大人が残せるもの残したいものは何でしょうか。私は「つながり」を残したいと考えています。学齢期に共に学んだ豊かな原体験を、人とのつながりと共に子どもたちの心に残してやりたいと考えています。

先日の大掃除に参加していただいた地域の方からは、「子どもと一緒におしゃべりしながら掃除をすることが楽しい」「子どもたちからのお礼の言葉がうれしかった」「校外で出会うだけでなく、学校内でまた出会うことはいいものですね」という感想をいただきました。プールの時間の見守りにも多くの方に協力していただき、安全な水泳指導を行うことができました。卒業生のボランティア活動は、子どもたちにとって、近い将来をイメージする存在となりました。これらの活動は、大人にとっても、子どもにとっても豊かな経験、つながりとなっています。

「子どもの行動の裏には理由がある」時代が令和となっても、これだけは変わりません。教育の営みは「種まき」といえます。大切に水と栄養、太陽の光を与えれば、必ず芽が出ると信じております。1学期の本校教育活動へのご理解とご協力に深く感謝しております。本当にありがとうございます。